

日本図書館研究会 2023年度決算報告・2024年度事業計画予算案

2024年度事業計画等の 提案にあたって

理事長 原田 隆史

2024年こそは明るい話題で話をはじめたいと思っていたのですが、元日から能登半島を中心とする大規模な地震でのスタートとなりました。自然の脅威だけではなく、人間社会においても政治資金パーティーを巡る裏金事件や、それを引き金とした政治不信の高まりなど暗いニュースが続いています。経済的にも世界的にインフレが急進し、社会不安が懸念される地域もあります。日本でも急速に円安が進み輸入品の値上がり懸念されます。戦争に関しても、一昨年2月に起こったロシアのウクライナ侵攻が未だに終息の見通しがたたない中、中東でも紛争が勃発しパレスチナ自治区ガザ地区の範囲をこえて中東戦争にエスカレートする可能性も取り沙汰されています。

震災や戦争、格差の拡大など多難な状況ではありますが、コロナ禍の収束(必ずしも安心できる状況ではないかもしれませんが)にともなって行動制限のない日常に戻るなど明るい話題が全くないわけではありません。禍を転じて福となすという故事成語にあるように、各種の問題が少しずつでも解決して2024年が良い年となるべく願うとともに、私たちが努力していきたいと思います。

図書館を取り巻く技術的な変化という意味では、昨年度にも取り上げた生成 AI が研究にビジネスに、さらに日常生活でもと活発に利用されるようになってきました。生成 AI に関連して刊行される図書の多さもさることながら、それが広い範囲の人々に興味を持たれるようになってきたのは社会への浸透という意味で重要な変化でしょう。たとえば、文系学部を対象とする同志社大学今出川キャンパスの生協

書籍コーナーで「生成 AI」または「ChatGPT」がタイトルに含まれる図書を探すと24冊もが書架に並んでおり、多くの人が手にとっていました。

生成 AI を図書館でどのように使うかということについての研究も進んできています。生成 AI には幻覚(Hallucination)と呼ばれる問題があることなどが広く認識されるようになってきたこともあり、図書館への応用についてもレファレンスや分類、選書などにすぐさま利用できるという過度な期待は聞かれなくなりましたが、その分だけ地に足の着いた議論が期待されます。

◇ ◇ ◇ ◇

さて日本図書館研究会の活動についてです。私が理事長になってからずっと景気の悪い話が続いていて恐縮ですが、2023年度も日本図書館研究会の財政は厳しい状況が続いています。会員数も2023年度入会が28名2団体であったのに対して退会者数は29名10団体でありました。団体に関しては会員を退くかわりに書店から図書館界を購入される例もありますが、団体会員の大幅な減少が続いているのは特に気になります。

現在、理事会などでも活動内容の質とレベルを維持しつつ無駄な支出を減らすべく、経費節減や会議へのオンライン参加など様々な方策を検討しております。ホームページの維持管理にCMSを導入して担当者が直接迅速に情報提供をできるようにするなど少しずつシステム化を進めておりますし、Web公開ができていない第50巻以前の図書館界のオープンアクセス化などの計画も進めております。各種の改革に関しては評議員・会員の方々からも数多くの意見を頂戴しておりシステム面だけではなく多くの改善点があることも承知しています。また前述の通り財政状況の厳しい中で、どのようにコストをかけずに実現できるかという点で苦慮もしています。まだ道半ばではありますが、できるところから少しでも努力を続けて行く所存です。

2023年度はコロナ禍での行動制限が解除されたことにもなって講演会や研究集会などの多くを対面で開催いたしました。延期をしておりました国際図書館学セミナーについても上海図書館からの招待講

演を含み活発におこなうことができました。

以下に掲載する事務局長および各委員長、担当からの提案説明、事業計画、予算案などの内容を検討していただき、本会の実質的な最高議決機関である評議員会での審議に向けて、会員の皆様からの多くのご意見、ご提言を期待しております。100周年に向けた日本図書館研究会の新たな活動に、今後とも会員の皆様方のご指導とご協力をお願い申し上げます。

(はらだ たかし 同志社大学)

事業計画・予算案の提案説明

事務局長 松井 純子

2024年早々に発生した能登半島地震では、会員・非会員問わず、多くの個人・図書館等が被災されたことと存じます。皆さまには、心よりお見舞い申し上げます。日図研としても、被災された方々や図書館等への支援を行うことをすでに決定・発表しています。(支援内容はHP、『界』前号を参照)

2024年3月の研究大会は、昨年に続いて集会形式で開催しました。延べ120名の参加を得て活気ある大会となりました。一方、会員数の減少には歯止めがかかりません。そうした状況での2023年度決算、および2024年度事業計画・予算案を説明します。

1. 2023年度決算

一般会計の《収入》では、「会費」収入が予算を15万円ほど下回りました。これは、23年度末時点で会費未納者が30名程度おられることが主な理由です。会員数は個人会員・団体会員とも減少しており、個人会員が23年度末で644名、団体会員が298団体と、それぞれ過去最低を記録しました。そのため、会費収入が十分確保できず、会運営の厳しさが増えています。『界』売上げは、書店等を通じた『界』の購読ですが、こちらは予算を7万円上回りました。また、会員から10万円の寄附を受けたこともあって、《収入》全体の決算額は当初予算を3万円ほど上回ることができました。

次に一般会計の《支出》です。理事会と各種委員会は対面とオンラインの併用、評議員会は対面開催としたことで、「会合費」と「交通費」の支出は予算を下回りました。「研究助成費」でもブロックセミナーが開催されず、その予算20万円が執行されなかったこと等により、予算の半分程度の支出に止まりました。「研究調査費」では、上海市図書館学会発行『図書館雑誌』掲載論文の翻訳料を含めた原稿料が予算を超過した一方、研究グループ助成に残金

◆新しい会員をお待ちしています◆

図書館の現場で働いておられる皆さま、図書館情報学の教育・研究に携わっておられる皆さま、日本図書館研究会(日図研)に入会しませんか?入会されると、本誌『図書館界』の送付のほか、本誌への投稿資格、研究大会等の参加費の割引なども得られます。

また、会員の方は、身近におられる方にぜひ入会をお勧めください。

●年会費

個人会員 5,000円 学生会員 3,000円
(学生会員は有職者を除きます)

●入会手続き

本会ホームページの入会申込フォームをご利用ください。または、入会申込書をダウンロードして、メール等でお送りください。詳細は、<https://www.nal-lib.jp/invite-dl/>(入会のお申込み)をご覧ください。

●入会時特典

新入会時に、本会刊行図書のうちご希望のものを1冊贈呈します。(新刊を除く)

●申込・問い合わせ(事務局)

E-mail: nittoken@ray.ocn.ne.jp

Tel & Fax: 06-6225-2530

(事務局員在室は月・木曜13:00~17:00)

約4万円が発生、戻入されました。

「雑誌刊行費」は、『界』74巻6号のページ数が多かったことで予算を超過していますが、75巻全体では予算内での執行となっています。

「組織強化費」は、入会案内リーフレットを7年ぶりに全面改訂し、印刷しました。「国際交流費」は、コロナ禍で延期されていた第14回国際図書館学セミナーを2023年12月によく開催しました。情報知識学会と共催し支出を分担したため、会員の参加費を無料にしつつ、予算内に収めることができました。「事務局費」では、業務引き継ぎのため23年10月から事務局員を2人体制としたことに加え、大阪府の最低賃金アップにより、例年よりも人件費・交通費が膨らみましたが、予算内に収まりました。

「予備費」からは、令和6年能登半島地震災害復興支援義援金として20万円を拠出しました。これは、日本図書館協会の「図書館災害対策のための指定寄附金」を利用して送金しました。

上記の結果、**一般会計**の収支は約267万円の黒字となり、24年度に繰り越しました。

特別会計に移ります。《収入》すなわち出版物の売上げは、合計金額で予算を上回ることはできませんでしたが、それでも222万円を売り上げました。特に、新刊『塩見昇の学校図書館論』が好調でした。他は残念ながら想定を下回りました。

特別会計の《支出》は、『日本図書館研究会の75年』『塩見昇の学校図書館論』の新刊2点の「出版印刷費」が予算内に収まりました。しかし『情報資源組織法別冊実例集』の作成費用20万円は執行できませんでした。その結果、昨年度よりも8万円多い1823万円を24年度に繰り越すことになりました。

第2特別会計(図書館研究奨励賞基金)は、例年同様、1件の論文に対し授与しました。《支出》は予算内に収まり、収支は順調でした。

2. 2024年度事業計画(案)

事業計画(案)は、昨年度と同じ項目が大半ですが、「15.『界』バックナンバーのオープンアクセス化」は24年度から取り組む新規事業です。現在、『界』51巻以降がJ-STAGE上で公開されていますが、未公開のバックナンバーを電子化し、J-STAGEで公開しようというものです。24年度は、そのための調査と準備作業を行う予定です。

「9. 国際交流の推進」は、これまで上海市図書館

学会との学术交流として行ってきた国際図書館学セミナーの開催を、23年度第14回をもって一旦打ち止めとし、今後のあり方を見直します。

3. 2024年度予算案

一般会計では、会員数の減少により、《収入》の柱である「会費」収入が頭打ちです。残念ながら23年度と同程度の予算を見積もることは困難のため、件数を減らして、個人会員640件、団体会員300件で予算化しました。「広告料」は、『界』75巻6号掲載の単発の広告収入を24年度に繰り越し計上しています。「利息」は、現状に合わせて見直しました。また今年度は、2025-2026年度役員選挙費として、40万円を**特別会計**から繰り入れます。それでも**一般会計**の《収入》の合計は、23年度より120万円以上減少してしまいました。

一般会計の《支出》では、図書館学セミナー開催費用として15万円を「研究助成費」に上乗せしました。一方、「国際交流費」は、上述のように国際交流のあり方を見直す方針のため、3万円に減額しました。「研究調査費」の研究グループ助成は、申請グループ数が7グループに減少したため、23年度よりも助成額が少なくなっています。

「雑誌刊行費」は、『界』の企画連載「解説・HOT TOPICS」や「誌上対話」等の充実を念頭に、年間420ページ(表紙等を含む)で予算化しました。

特別会計から繰り入れた40万円を、「役員選挙費」として計上しました。「通信費」は、23年度決算を元に減額しましたが、郵便や宅配便の料金の値上げによる支出増が予想されます。「事務局費」は、業務引き継ぎのため、24年度も人件費・交通費を3か月分上乗せして計上しました。

上記の結果、**一般会計の《支出》**の合計は、昨年と同程度の1009万円となり、予備費が約30万円しか確保できませんでした。会費収入と『界』の売上げだけでは支出を賄えない状況が常態化しており、これまでは前年度繰越金で不足分をカバーする形でした。24年度予算案では次年度繰越金がどの程度になるのか、不安と厳しさが増えています。

次に**特別会計**です。《収入》では、各出版物の売上げを下方修正しました。そのため《収入》の合計金額は、23年度を110万円以上下回りました。

《支出》では、**事業計画(案)**にあげた新規事業「『界』バックナンバーのオープンアクセス化の調

査・検討」のための費用50万円を「出版調査費」として計上しました。また23年度に執行されなかった『情報資源組織法別冊実例集』の作成費用20万円を「出版印刷費」に再計上しました。さらに、2025-2026年度役員選挙費として40万円を一般会計に繰り出します。

その結果《支出》の合計は135万円となりました。出版物の売上げが予算案どおりであったとしても、23年度よりも繰越金が減少すると思われます。

第2特別会計は、《収入》《支出》とも23年度と同様の予算編成で、大きな変更はありません。

4. おわりに

20年前、つまり2004年4月1日の日図研の状況を振り返ると、個人会員は1004名、団体会員は500となっていました。20年間で、実に個人は約360名、団体は200、それぞれ減少したことになります。図書館関係団体はどこも同様の状況と推測しますが、こうした状況で一体いつまで日図研を安定的に運営できるでしょうか。甚だ心許なく感じます。

周知のことですが、多様な館種の図書館員と図書館情報学研究者が集い、交流することが日図研の特徴です。そのためには、すそ野をできるだけ広くして、会員・非会員を問わず幅広く交流できるような仕組みを提供することが大切です。職場以外での図書館員・研究者との交流に関心がないかたも多いのかもしれませんが、それを黙って見ているだけでは図書館界は縮小に向かうだけではないでしょうか。

コロナ禍を乗り越えた今、私たちには、単に情報共有だけでなく、積極的に交流し対話することが必要不可欠です。日図研は、そのプラットフォームとして、対面・交流・対話・協力・連携の機会を様々に提供していきたいと考えています。

* * * * *

ここに掲げた決算報告、事業計画・予算案の審議と承認は評議員会の役割ですが、会員の皆さんの声をできるだけ反映させたいと思います。メール、FAX等で、ぜひご意見を寄せてください。当会の運営や行事についての感想・要望等でも結構です。

送付先：事務局 nittoken@ray.ocn.ne.jp

送付期限：5月20日(月) 必着

※2024年度評議員会：5月26日(日) 同志社大学

(まつい じゅんこ 大阪芸術大学)

会員とともに歩む 『図書館界』を めざして

編集委員長 石川 敬史

走りながら考える。

年6回の刊行——編集委員長という大役を仰せつかり、1年が経過いたしました。目の前のことで精一杯でしたので、数多くの至らない点があったと存じますが、多くの会員の皆様にお支えいただいた1年でした。とりわけ、嶋田学・副委員長、前川敦子・前委員長をはじめ、経験と実績のある編集委員の皆様より多大なるお力添えをいただきました。会員とともに歩む『図書館界』を痛感した1年でした。多くの皆様に深く感謝いたします。

はじめに、昨年度の『界』(75巻)の構成をご報告いたします。

- ・《論文》5本
- ・《特集・第64回研究大会》グループ研究発表8本、シンポジウム報告4本、質疑応答・意見交換
- ・《特集・誌上対話》「地域社会において公共図書館が担うべき役割と責任：実践と研究をつなぐ誌上対話」3本
- ・《特集・図書館DXの可能性》「上海市図書館学会『図書館雑誌』翻訳」3本
- ・《解説・HOT TOPICS》「何が変わる？図書館サービス：著作権法の権利制限規定の見直しを巡って」2本
- ・《書評》8本、《新刊紹介》13本
- ・《追悼》西田博志さん 2本
- ・《報告》第14回国際図書館学セミナー報告

昨年度、6回の編集委員会を開催し、特集・誌面構成の検討を重ねて参りました。75巻では上海市図書館学会との国際交流協定の一環として論文の翻訳掲載を企画しました。翻訳にご尽力いただきました園田俊介様、櫻井待子様には厚く御礼申し上げます。

『界』へご投稿いただいた会員の皆様、書評・新刊紹介等の執筆依頼に快く応じてくださった皆様へ、心より御礼申し上げます。

以下、本年度の編集委員会の計画です。

1. 《論文》・《研究ノート》・《現場からの提言》

『界』の核は会員の皆様からの投稿論文です。査読の対象となる《論文》、《研究ノート》、《現場からの提言》へ昨年度中にご投稿いただいた本数は10本でした。このうち採録等(今後の掲載分も含む)は3本、査読中・手続き中(3月末現在)は4本です。近年は、実践的な報告・提言として「『図書館界』原稿種別の定義」に位置づけられている《現場からの提言》の投稿が少ない傾向にあります。本会の特長は「館種をこえた会員構成」そして、「研究と実践の往復」といえます。会員の皆様の問題意識の共有、調査の報告、研究の発表の場として、『界』をご活用いただけますでしょうか。編集委員一同、引き続きまして会員の皆様による積極的なご投稿をお待ちしています。

2. 特集・連載

昨年度より新しい特集《誌上対話》「地域社会において公共図書館が担うべき役割と責任：実践と研究をつなぐ誌上対話」がスタートいたしました。この新特集の開始にあたり、編集委員会ではかつて『界』に掲載された2つの特集《誌上討論》を参考に、一昨年より検討を重ねてまいりました。「実践者と研究者との対話を積み重ね、次代の図書館を切り拓いていく道筋を探れないかと考え」(『界』75(3), p.188) 企画いたしました。本号(76巻1号)においても2本の《誌上対話》を掲載し、以後、継続して掲載していく予定です。会員の皆様の《誌上対話》へのご投稿をお待ちしています。

また、2020年度に開始した「解説 HOT TOPICS」は5年目を迎えました。今年度は、自然災害が激甚化かつ頻発する近年の状況をふまえ、「自然災害と図書館」をテーマに、自館を知り、自館を考える契機になることを意図して企画いたしました。

なお、今年度も2号(7月)と6号(3月)に以下の特集を予定しています。このうち2号では第65回研究大会のシンポジウム(2024年3月10日)にご登壇いただいた皆様のご報告と活発な議論・質疑が掲載される予定です。

・2号：《第65回研究大会》「読書バリアフリーと図書館」

・6号：《2024年度図書館学セミナー》

3. 《書評》・《新刊紹介》・《エコー》

昨年度は《書評》8本、《新刊紹介》13本を掲載いたしました。多様な書き手の発掘を意識しながら、「図書館・図書館情報学及び関連領域」に関する専門書等を《書評》と《新刊紹介》において積極的に掲載いたしました。今年度も同様に掲載を進めていく予定です。編集委員会より執筆の依頼がありましたら、ぜひご協力をよろしく願います。書評の投稿も歓迎です。

なお《エコー》は、「『図書館界』原稿種別の定義」にて、「日本図書館研究会への意見・感想・要望、質問、また図書館界に関する話題・情報提供など、会員からの声を表明する場とする」としています。昨年度の投稿はございませんでした。情報提供や会員間の双方向な意見交換の場としてぜひご活用ください。

4. その他

昨年度、編集委員会では《論文》《研究ノート》の分量や、論文投稿時における「未公開」の定義に関して、他学会の投稿規定等の調査をいたしました。今後も会員とともに歩み続ける『界』をめざして、内容の充実に努めてまいります。

『界』の編集委員は、図書館に勤務する会員や大学教員の会員から構成されています。編集委員一同、昨年と同様に本務を抱えながらの細かい編集作業を担いますが、皆様からのご支援をいただきたく、重ねてよろしく願います。

(いしかわ たかし 十文字学園女子大学)

研究委員会の 主な事業について

研究委員長 日置 将之

2023年度は新型コロナウイルス感染症の影響も弱まり、研究大会を対面で開催するとともに、交流会も久しぶりに実施することができました。研究例会についても対面での開催が増えましたが、必要に応じて一部はオンラインでも開催しています。今年度も当会ならではの研究事業を実施したいと考えておりますので、引き続きご協力をお願いいたします。

以下、会員間の研究成果の発表・交流・学習等の場として、研究委員会が今年度担当する主な事業をご紹介します。

1. 研究大会の開催

2024年度(第66回)研究大会は、2025年2月～3月頃に2日間の日程で開催する予定です。例年と同様、1日目は個人会員と研究グループの研究発表を行い、2日目のシンポジウムは図書館に関する重要なテーマを設定して論議を行いたいと考えています。

大会のお知らせは、本誌76巻3号(9月)に個人発表等の募集を、4号(11月)に大会予告を、5号(1月)に正式な大会案内を掲載する予定です。また、本会のウェブサイトやX(旧ツイッター)アカウント等でも随時ご案内します。

2. 研究例会・特別研究例会の開催

日常的な研究・活動報告の場として年間8回程度開催しています。会員・非会員を問わず参加可能とし、広く開かれた形での開催です。発表に関心があるの会員はぜひご連絡ください。なお研究グループは、研究成果の公開を、研究大会のほか、研究例会での発表で行うことも可能です。

特別研究例会は、評議員会の日程にあわせて午前中に開催します。今年度は、本号 p.71に記載のとおり、5月26日(日)に同志社大学(京都市)にて逸村裕氏(筑波大学名誉教授)をお招きして開催する

予定です。

3. 図書館学セミナーについて

図書館学セミナーは、時流に沿った関心の高いテーマを設定して討議する場として開催しています。今年度は、10月に1日の日程で開催する予定です。詳細は、76巻3号(9月)にてご案内します。

4. グループ研究への助成

会員の皆様は、地域又は研究テーマごとに研究グループを組織することができます。また、会員7名以上から構成される研究グループについては、研究委員会で審査し、理事会での承認を得た上で、原則として年3万円を2年間にわたり助成しています。助成を受けた研究グループには、研究大会や研究例会、本誌誌上などでの研究成果の報告をお願いしています。研究グループの参加は全ての会員に開かれていますので、既存研究グループへの参加や新たな研究グループの結成については、各研究グループの連絡先や研究委員会にご相談ください。

5. お願い

研究大会・例会等のテーマや発表者についてご希望がありましたら、研究委員会までお知らせください。また、研究大会・例会等の講師のお願い・会場提供のご相談をさせていただくことがありますので、よろしくご協力いたします。研究活動のさらなる発展のため、引き続きご協力いただけると幸いです。

(ひおき まさゆき 大阪府立中之島図書館)

図書館研究奨励賞

未完であっても可能性のある 研究(者)を支援します

図書館研究奨励賞選考委員会
委員長 **常世田 良**
担当事務 **久野 和子**

日本図書館研究会図書館研究奨励賞は、故森耕一理事長が設立された基金によって1990年より30年以上にわたり運営されてきました。賞の名称にあるように「研究」の方向性、意義等を評価して「奨励」することが目的ですので、論文そのものの完成度を評価するのではなく、若手研究者、あるいはこれまで研究結果の公表機会に恵まれなかった方、またアカデミックな環境にある方々のみならず図書館現場で勤務されている方々など、いわゆるベテラン研究者以外の方々の「研究」内容を評価対象といたします。

具体的には日本図書館研究会の機関誌『図書館界』において査読を経て掲載された「論文」、「研究ノート」、「現場からの提言」が評価対象となります。学術論文としての体裁が考慮されない「研究ノート」、「現場からの提言」が評価対象となるのは前述の同賞のコンセプトによるためです。特にベテラン研究者以外の若手・中堅の書き手に注目し、その「研究」が有する伸びしろや図書館界を刺激する新鮮な要素を見出す役割を持ちたいと考えています。当該研究分野の発展性に寄与できる可能性を会員の皆さまと共に選び、賞を贈るといった役割を担いたいと思いません。

そのためには活発な投稿が必要となります。研究者はもちろんのこと、各種の図書館現場において日々の図書館活動に邁進されている方々は、往々にして多忙で時間に余裕がないと思われそうですが、何とか著作に勤しんで頂きたいのです。特に若手の方々に期待いたします。コロナ禍を経て、あるいはデジタル化の進捗で、われわれ図書館関係者は図書館のサービスの在り方に見直しが必要だという事実を突き付けられています。利用者を支え、また利用者によって支えられる図書館界に生きる図書館関係者である会

員の皆さまからの『図書館界』への投稿の増加を望みます。

奨励賞を授与させていただくことにより未来の研究や職場での実践に後押しができることになれば、こんな嬉しいことはありません。可能性のある研究者に図書館研究奨励賞を贈り、皆様とともに授賞者を讃えることを楽しみにしたいと思います。

当委員会の活動スケジュールは、例年通り概ね以下の予定です。

5月『界』5月号 前年度授与報告、年間予定掲載
7月第3回理事会にて、選考委員会構成(外部委員含む5名)の承認

11月『界』11月号に、案内記事掲載、自薦、他薦募集開始

12月推薦締切

1月委員の評価締切、候補者決定

2月理事会において「受賞者」承認

2月あるいは3月研究大会初日、委員長から選評報告、理事長より奨励賞表彰状、副賞10万円(佳作の場合5万円)授与、受賞者挨拶

今年度(2024年度)の選考対象は、『図書館界』2022年11月号(74巻4号)から2024年9月号(76巻3号)までに掲載されたもの(詳細については、研究会ホームページ「図書館研究奨励賞」を参照)。

(とこよだ りょう)

(くの かずこ 立命館大学)

ブロックセミナーの開催を。

ブロックセミナー担当
川崎 千加・谷合佳代子

ブロックセミナーは、コロナ禍のオンライン開催となった2020年度の九州ブロックセミナー以降、休止状態となっています。集合して議論したり、情報を共有することが、対面に限らなくなったからかもしれません。

一方で、これまでのセミナーでは、会員のみならず住民や市民団体が参加されるなど、地域と図書館を考える機会ともなってきました。研究者と現場の図書館員が共に図書館について語れる、様々な館種の会員が参加していることも日図研の特色です。各地域で気軽に足を運んで、図書館をテーマに議論できる場を設ける。最新の研究成果に接することができる講演会を開催する。セミナーという言葉にとらわれず、地域の図書館員との交流を図る座談会を開くなども考えられます。開催にかかわる経費は、原則として全額を日図研が負担します。

人との繋がりや研修は図書館員にとって大切なものです。ブロックセミナーは対面開催を原則としますが、ブロックを超えて気軽に話したい場合は、オンライン交流会の開催も可能です。各地域の図書館や図書館に関わる人々との交流の場、図書館について考え、語り合う場が持たれ、各地の図書館の活動が活発になることを願っています。

企画については、担当理事の川崎・谷合がご相談に応じます。まずは気軽に下記、事務局あてにご連絡ください。ブロックセミナーの開催要項等の詳細はホームページに掲載しています。

<https://www.nal-lib.jp/block-seminar/>

連絡先：日本図書館研究会事務局

電話：06-6225-2530

(月・木曜13時～17時)

E-mail：nittoken@ray.ocn.ne.jp

(かわさき ちか 京都産業大学)

(たにあい かよこ エル・ライブラリー(大阪産業労働資料館))



留学生への『図書館界』 無料頒布について

本会では、図書館情報学を学ぶ大学院留学生に『図書館界』の無料頒布を行っています。国際交流の一環として、図書館研究や図書館の理解に役立ててもらいたいという趣旨です。

2024年度も下記の要領で実施しますので、該当者は、大学院の指導教員を通じて本会事務局までお申し込みください。大学院生を指導される教員で該当する院生がおられる先生は、院生に声かけのうえ、本会にご連絡ください。

記

- 1) 対象者は、日本で図書館情報学を学ぶ大学院留学生で、向こう1年間の在学や研究が確定している者です。
- 2) 申込は、本会の会員である指導教員よりお申し込みください。
- 3) 『界』各号を当該留学生に直接送付します。2024年度は『界』76巻1号～6号(2024年5月号～2025年3月号)です。
- 4) 所定の申込用紙やその他の詳細については、本会事務局(下記)までお問い合わせください。

E-mail：nittoken@ray.ocn.ne.jp

2023年度一般会計決算報告

《収 入》

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
前年度よりの繰越金	4,207,881	4,207,881	
会 費	5,915,000	5,759,500	個人5,000円×616=308万円 (22年:13, 23年:452, 24年:147, 25年:4) 学生3,000円×12=3.6万円 団体8,500円×311=264.35万円 (22年:85, 23年:224, 24年:2)
『界』売上げ	1,250,000	1,320,200	6,800円×192=130.56万円 バックナンバー 抜刷代
広 告 料	220,000	220,000	
雑 収 入	10,000	108,233	寄附 事務所使用料 コピー代 ほか
利 息	10,000	28,175	
特別会計から繰入れ	0	0	
合 計	11,612,881	11,643,989	

《支 出》

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
会 合 費	300,000	153,569	編集委員会 研究委員会
交 通 費	1,030,000	805,640	理事会 評議員会 会計監査
研 究 調 査 費	350,000	325,476	原稿料 研究グループ助成
研 究 助 成 費	600,000	303,058	研究大会・研究例会・特別研究例会 Zoom アカウント
雑 誌 刊 行 費	4,280,000	4,321,790	74巻6号～75巻5号 J-STAGE 搭載費
組 織 強 化 費	100,000	23,503	入会案内
印 刷 費	50,000	35,640	『界』送り状
国 際 交 流 費	300,000	286,566	第14回国際図書館学セミナー
役 員 選 挙 費	0	0	
通 信 費	750,000	486,068	『界』郵送費 電話代 切手・レター バック代
払 込 料 負 担 費	10,000	6,363	業者払込料負担金 振込料
消 耗 品 費	50,000	69,146	OPP 封筒 プリンター用ラベル コピー用紙 ほか
事 務 局 費	2,310,000	1,957,291	人件費 交通費 事務所借用料 光 熱水費 サーバレンタル料 プロジ ェクター用スクリーン
予 備 費	1,482,881	200,000	令和6年能登半島地震災害復興支援 義援金
小 計	10,130,000	8,974,110	
次年度への繰越金	0	2,669,879	
合 計	11,612,881	11,643,989	

2023年度特別会計決算報告

《収入》

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
前年度よりの繰越金	18,154,949	18,154,949	
情報資源組織法	600,000	438,844	286冊
図書館資料の目録と分類 増訂第5版	150,000	212,906	230冊
日本図書館研究会の75年	1,000,000	487,056	154冊
塩見昇の学校図書館論	1,000,000	953,106	411冊
そ の 他	20,000	128,728	図書館・図書館学的发展16 移動図書館ひかり号7 こうすれば利用が ふえる6 本をどう選ぶか4 公立 図書館の役割3 レファレンス・ ワーク2 ほか
合 計	20,924,949	20,375,589	

《支出》

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
出版編集会合費	20,000	0	
出版編集費	30,000	42,898	訂正用ラベル
出版印刷費	2,050,000	1,927,810	日本図書館研究会の75年 塩見昇の 学校図書館論
通 信 費	200,000	166,202	書籍送付用宅急便・メール便 レ ターバック Amazon年会費
一般会計へ繰出し	0	0	
予 備 費	18,624,949	0	
小 計	20,924,949	2,136,910	
次年度への繰越金	0	18,238,679	
合 計	20,924,949	20,375,589	

2023年度第2特別会計決算報告

【図書館研究奨励賞基金】

《収入》

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
前年度よりの繰越金	10,335,271	10,335,271	基金1,000万円
利 息	20,000	23,615	
合 計	10,355,271	10,358,886	

《支出》

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
奨 励 賞 副 賞	100,000	100,000	1件(西浦ミナ子氏)
事 務 費	5,000	2,552	賞状・筒
予 備 費	10,250,271	0	
小 計	10,355,271	102,552	
次年度への繰越金	0	10,256,334	
合 計	10,355,271	10,358,886	

2023年度監査報告

2024年3月25日、日本図書館研究会事務所において会計監査を実施しました。その結果は以下のとおりです。

- 1) 支出に関する帳票・領収書類及び収入に関する帳票類は、よく整理され、かつ記載事項に誤りがなく、会計事務は適正であると認める。
- 2) 財政に関しては、理事会、各委員会など関係者による節約、努力もあり、ほぼ適正な執行がなされていると認める。個人会員・団体会員ともに漸減傾向が続いている。これに伴い会費収入も減少している。現状では支出面での節減努力により「収支の均衡」がほぼ保たれているが、今後に備えて入会者の獲得や出版物の販売など、収入の確保に一層留意されるよう期待する。
- 3) 23年度特別会計予算で計上されていた『情報資源組織法別冊実例集』が発行できなかったことに関して、予算作成時にきちんとした見通しを持って予算案を作成することが必要であろう。
- 4) 2023年10月からインボイス制度が本格実施され、免税業者扱いの当会では出版物の価格表示の変更などの対応に追われたが、大きな混乱なく処理したことは評価したい。
- 5) 中国の上海図書館学会との交流事業として開催されてきた国際図書館学セミナーは、12月の第14回セミナーで終了した。今後は論文の相互

掲載など交流のあり方が変わるが、中国以外の国への拡大を含め、新たな交流方法の検討が求められる。

- 6) 『図書館界』バックナンバーのオープンアクセス化についての準備が企画されているが、相当の経費が必要となると推測されるので、財政状況に留意しながら着実な事業の遂行に努めてもらいたい。
- 7) ブロックセミナーは今年度も開催できなかった。このセミナーの意義を再確認して、評議員に過度な負担がかからない方法で実施する必要がある。ブロックを限定せず、全国どこからでも参加できるオンライン形式の採用など、新たなセミナーのあり方も含めて検討する必要があるのではないか。
- 8) ブロック制や評議員制度に関して、組織検討委員会を立ち上げ精力的に検討を進めている。当会の今後の組織のあり方に係わる重要な内容であり、会員の意見を聞きつつ迅速に成案を練り上げ、改革が実行されることを期待する。

以上、報告します。

2024年3月25日

監事 西村 一夫[Ⓔ]

前田 章夫[Ⓔ]

決算報告、事業計画・予算案にご意見をお寄せください

本号掲載の2023年度決算報告、2024年度事業計画・予算案の審議・承認は評議員会の役割ですが、会員の皆さまの声を聴き、審議に反映させたいと思います。当会の運営や行事についてのご意見・ご要望でも結構ですので、ぜひそれらをメール・FAX等でお寄せください。

送付先：事務局 nittoken@ray.ocn.ne.jp

送付期限：5月20日(月) 必着

評議員会日時：5月26日(日) 13:30~16:30

〃 会場：同志社大学新町キャンパス

2024年度事業計画(案)

〈研究活動〉

1. 『図書館界』76巻1～6号の編集・発行
2. 第66回研究大会・研究例会・特別研究例会の開催
3. 図書館学セミナーの開催
4. ブロックセミナー等の開催
5. 図書館・図書館学関係図書 の出版

〈研究の奨励と会の拡大に関わる活動〉

6. 地域における研究活動の支援
7. 障害者会員への対応
8. 図書館研究奨励賞の授与
9. 国際交流の推進
10. 会員・研究グループの研究活動への助成
11. 留学生への『図書館界』の無料頒布
12. 会員および購読者の拡大
13. ホームページの維持・更新
14. 『界』オープンアクセス事業(J-STAGE)の継続
15. 『界』バックナンバーのオープンアクセス化の調査・検討

〈その他〉

16. その他本会の目的にそった事業

2024年度一般会計予算(案)

〈収入〉

項 目	23年度予算	24年度予算	備 考
前年度よりの繰越金	4,207,881	2,669,879	
会 費	5,915,000	5,780,000	個人 5,000円×640=320万円 学生 3,000円×10=3万円 団体 8,500円×300=255万円
『界』売上げ	1,250,000	1,250,000	6,800円×180=122.4万円
広 告 料	220,000	264,000	
雑 収 入	10,000	10,000	事務所使用料 寄附 コピー代 ほか
利 息	10,000	20,000	
特別会計から繰入れ	0	400,000	2025-2026年度役員選挙
合 計	11,612,881	10,393,879	

〈支出〉

項 目	23年度予算	24年度予算	備 考
会 合 費	300,000	300,000	研究委員会15万円 編集委員会15万円
交 通 費	1,030,000	1,030,000	理事会65万円 評議員会36万円 特別研究例会1万円 会計監査1万円
研 究 調 査 費	350,000	350,000	原稿料8万円 研究グループ助成27万円
研 究 助 成 費	600,000	750,000	研究大会・セミナー・研究例会50万円 ブロックセミナー20万円 特別研究例会3万円 Zoom アカウント2.2万円
雑 誌 刊 行 費	4,280,000	4,300,000	8,800円×420頁×1.1=406.6万円 J-STAGE 掲載費22万円
組 織 強 化 費	100,000	50,000	入会案内 ほか
印 刷 費	50,000	50,000	『界』送り状 ほか
国 際 交 流 費	300,000	30,000	
役 員 選 挙 費	0	400,000	2025-2026年度役員選挙
通 信 費	750,000	650,000	『界』郵送料 切手代 電話代 ほか
払 込 料 負 担 費	10,000	10,000	業者払込料負担金 ほか

《支出》

項 目	23年度予算	24年度予算	備 考
消 耗 品 費	50,000	50,000	事務用封筒 プリンター用ラベル プリンター用インクボトル コピー用紙 ほか
事 務 局 費	2,310,000	2,120,000	人件費1100円×6h×10日×(12+3)か月=99万円 交通費1500円×10日×(12+3)か月=22.5万円 事務所借用料6,500円×12=78万円 光熱水費10万円 サーバレンタル料2.5万円 ほか
小 計	10,130,000	10,090,000	
予 備 費	1,482,881	303,879	手話通訳10万円 ほか
合 計	11,612,881	10,393,879	

2024年度特別会計予算(案)

《収入》

項 目	23年度予算	24年度予算	備 考
前年度よりの繰越金	18,154,949	18,238,679	
情報資源組織法	600,000	500,000	残部1610
図書館資料の目録と分類 (増訂第5版)	150,000	40,000	残部40
日本図書館研究会の75年	1,000,000	500,000	残部310
塩見昇の学校図書館論	1,000,000	500,000	残部260
そ の 他	20,000	20,000	移動図書館ひかり号 ほか
合 計	20,924,949	19,798,679	

《支出》

項 目	23年度予算	24年度予算	備 考
出版編集会合費	20,000	20,000	
出版編集費	30,000	30,000	
出版物印刷費	2,050,000	200,000	情報資源組織法別冊実例集 20万円
出版調査費		500,000	『界』週及的電子化のための調査費
通信費	200,000	200,000	刊行物送料 ほか
一般会計へ繰出し	0	400,000	2025-2026年度役員選挙費
小 計	2,300,000	1,350,000	
予 備 費	18,624,949	18,448,679	
合 計	20,924,949	19,798,679	

2024年度第2特別会計予算(案)

《図書館研究奨励賞基金》

《収入》

項 目	23年度予算	24年度予算	備 考
前年度よりの繰越金	10,335,271	10,256,334	基金1,000万円
利 息	20,000	20,000	
合 計	10,355,271	10,276,334	

《支出》

項 目	23年度予算	24年度予算	備 考
奨 励 賞 副 賞	100,000	100,000	
事 務 費	5,000	5,000	
予 備 費	10,250,271	10,171,334	
合 計	10,355,271	10,276,334	